

令和7年7月16日

第1回長野市スポーツ推進審議会

# 社会体育館の有料化に関する 検討経過について

長野市スポーツ部 スポーツ課

FEEL NAGANO, BE NATURAL

この街で、わたしらしく生きる。長野市

# 審議会の開催経過

開催日	主な内容
R4.7.20 (R4年度第1回)	・社会体育館の現状と課題について
R4.10.3 (R4年度第2回)	・社会体育館利用者アンケートの報告 ・中核市、県内他市の状況
R4.11.29 (R4年度第3回)	・今後の社会体育館の管理方策について市の進め方を決定(将来の在り方検討・有料化検討)
R5.2.17 (R4年度第4回)	・これまでの審議経過の確認、他市の管理状況
R5.6.2 (R5年度第1回)	・社会体育館の幅広い活用と課題 ・受益者負担(有料化)導入のメリットとデメリット
R5.11.24 (R5年度第2回)	・社会体育館の管理方策 ・受益者負担の考え方(負担コストのイメージ)
R6.3.11 (R5年度第3回)	・社会体育館使用料案 ・受益者負担の考え方 ・社会体育館のコストと使用料の考え方
R6.7.19 (R6年度第1回)	・社会体育館空調設備の設置検証 ・社会体育館の開館時間延長検証
R6.11.25 (R6年度第2回)	・社会体育館の利用状況の把握・分析 ・空調及び開館時間延長検証結果

# 1 社会体育館の成り立ち

## ●社会体育館とは

- ・長野市では、身近なスポーツ施設として社会体育館、市民プール、屋外運動場などの施設を整備してきた。
- ・中でも社会体育館は、屋外でのスポーツ活動が難しい冬季でも天候に関わらずスポーツを楽しめる施設としての役割も果たしている。
- ・近年では、スポーツと健康づくりの関係性が注目されているが、長野市は社会体育館を拠点として、先進的にスポーツによる健康づくりに取り組んできた。
- ・地域でスポーツに親しむ取組みが、冬季オリンピック・パラリンピックの開催や4つのプロスポーツチームの活動など、スポーツが盛んな文化や土壌にもつながっている。
- ・このように身近なスポーツ活動の拠点としての社会体育館から、全国規模の大会やプロスポーツチームの試合が開催可能な大規模な施設が揃っていることで、こどもから高齢者、さらに幅広い世代の市民がスポーツに親しめることが長野市の持ち味。
- ・本市は、これからも今ある施設を活かして、アマチュア、プロを問わず「する」「観る」「支える」といった一層多様な視点からのスポーツ振興を進めていく。



三輪体育館（S54建設）



大豆島体育館（H28建設）

## 2 社会体育館の現状と課題

- 市内に32施設あり、中核市では鳥取市（41施設）の次に多い施設数
- 多くの市民に利用されているが、地域や時間帯によっては利用が集中し予約が取りづらい状況（稼働率 市街地 約85%、中山間地 約30%）
- 老朽化が進み、これまで耐震改修や施設の維持に必要な諸設備の改修など、利用者からは目に見えない部分の改修に多額の経費がかかっている  
その影響で、利用者が望んでいる施設の利便性向上など、細やかな改修・修繕が遅れがちになる傾向
- 存続に向け、老朽化対策などの費用増加に対応するための財源が見込めない。
- 老朽化が進む中で、現在直面している課題への対策等に充分対応できない。  
（維持管理、老朽化対策、機能向上等）
- 施設数が多く、数を減らすことの検討も必要  
【長野市公共施設個別施設計画】建物の対策：集約／複合化5施設、長寿命化17施設、事後保全10施設

# 3 これまでの主な検討経過

## (1) R4年度 第2回審議会 (R4.10.3)

### ●アンケートの概要

- ① 受益者負担の観点から今後の利用者の考えを把握すること
- ② 社会体育館の効率的な維持管理を行うための利用者ニーズを把握すること

### ●調査の方法

対 象：令和元年度～3年度に社会体育館を利用した団体（4,653）、代表者が回答

実施方法：メール（メールで連絡できない場合は郵送）

調査期間：令和4年9月1日～9月15日

回答方法：WEBフォームで回答

配布数：4,022団体 回答数1,008件（25.1%） ※有効回答数989件（24.6%）

### ●アンケート結果

	利用料は無料のまま、 使えなくなるまで使う	利用料は有料とするが、 負担は少なくし、負担しきれない分の施設は減らす	利用料は有料とし、 施設は減らさない	その他	計
利用環境が向上するなら、 一定の負担はやむを得ない	5.4%	16.8%	17.6%	0.8%	40.5%
利用環境は現状並みで、 負担は少ない方がよい	26.0%	19.7%	8.8%	3.3%	57.8%
その他	0.3%	0.5%	0.1%	0.7%	1.6%
計	31.6%	37.0%	26.5%	4.9%	100.0%

- **利用料の導入を支持する意見は68.3%** ←
- 「体育館を改修して使い続ける」79.7%、「体育館を改修しないで、使えなくなるまで使う」16.9%
- 「利用料は無料のまま、使えなくなるまで使う」は31.6%まで上昇する  
一方で「利用料は有料とするが、負担は少なくし、負担しきれない分の施設は減らす」は37.0%と最も多くなっている

## (2) R4年度 第3回審議会 (R4.11.29)

### 今後の社会体育館の管理方策について (市の進め方)

#### 1 当面の間は、公共施設個別施設計画に沿って活用し、老朽化の度合いや利用状況などから将来的な施設のあり方について検討を進めます。

(留意すべきこと)

- ・一部の施設を減らしていくことはやむを得ないが、耐用年数や利用率を見据えつつ、改修による維持を検討すること。
- ・今後の管理方法について、指定管理者制度や住民自治協議会など民間活力の導入による管理方策を検討すること。
- ・地域での活用、文化芸術活動、民間での利用など、体育館の多様な活用を検討すること。

#### 2 社会体育館の適切な維持・管理のため、受益者負担(有料化)について検討を進めます。

(留意すべきこと)

- ・子ども・高齢者・障害者に配慮しながら検討すること。
- ・他市の受益者負担の状況や市の維持管理の状況など、利用者に分かりやすい丁寧な説明と、有料化した場合には十分な周知を行うこと。
- ・有料化した場合の利用料金の活用は、維持管理だけでなく施設環境の向上など利用者の目に見える形で活用方法を検討すること。

### (3) R5年度 第1回審議会 (R5.6.2)

#### 社会体育館の活用にあたって、受益者負担(有料化)導入のメリットとデメリット

(審議会での委員からの主な意見)

##### ● スポーツ実施率

- ・ スポーツの実施率は高いが、有料化でどうなるかということが大事。  
利用者が気持ちよく利用でき、**使用料が負担ではなく、必然になれば、実施率は下がらずに**上げることに繋がる。

##### ● 利便性

- ・ **利便性が高まれば、有料化については認められる**と思う。ただ、どこまで利便性を高めるかは非常に重要と思う。
- ・ 相対的には支払う対価以上に享受される施設の利便性が高ければあまりクレームは来ない。
- ・ 今は無料であるから、クレームを言わないが、有料化するとお金を払っているのに整備されていないというクレームもあると思う。

##### ● 部活動の地域移行

- ・ **学校関係の地域クラブ**が社会体育館を使う場合には**料金**が発生するのか、受益者の区分が必要になってくる。

## (4) R5年度 第3回審議会 (R6.3.11)

### 社会体育館のコストと使用料の考え方

#### ●スポーツ施設の利用料について

平成20年11月 右肩上がりの経済状況が終息、地方公共団体の財政的厳しさが増す中で、  
公共サービスの利用に伴う費用負担が議論に

「行政サービスの利用者の負担に関する基準」策定

無料としているスポーツ施設については、基本的に有料化を目指す方向が決定

平成21年度以降、順次見直し

料金徴収が可能な施設  
↓  
有料化や料金の見直しを実施

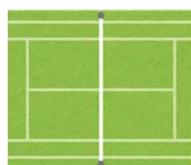
大規模体育館



プール



テニスコート



陸上競技場



...

料金徴収が困難な施設  
↓  
無人施設は積み残しに

社会体育館



### ●社会体育館の課題

- スポーツの活性化のために社会体育館を残していきたいが、老朽化が進み、大規模な改修や建設当時のままの古い設備の改善を行わないと長く使い続けることができない。
- 社会体育館の数を減らさずに快適にできるだけ長く使っていくために、日常的に社会体育館を利用している皆さんの協力が必要となっている。



### ●社会体育館の目指す姿

利用者と協力しながら存続し、  
多くの人々が快適で安全に使える体育館

- 1 全ての社会体育館を残して今後も継続して使い続ける
- 2 時代の変化に対応した、先の世代も使える体育館にする
- 3 近年の異常気象などの環境変化や災害等に対応した体育館にする

## ●社会体育館の目指す姿の実現に向けて

### 社会体育館の管理方策

- 1 社会体育館は、耐用年数や利用率を見据えつつ、当面の間は今ある施設をできる限り活用できるように、改修による維持を進めます。
- 2 時代のニーズに対応した社会体育館の適切な維持・管理のため、**受益者負担(有料化)**を進めます。



これまでのように設備や運営管理を維持しつつ、利用者負担を充てながら、老朽化対策や施設機能の向上、施設維持管理の充実によって社会体育館の利便性や施設全体の環境を向上していく。

### 想定されている取組例

- 生活様式の変化に合わせた**トイレの洋式化**
- 熱中症対策として**空調設備の導入**
- 天候に左右されない子供の遊び場など、**子育てへの活用**
- **中山間地施設**の利用促進
- 社会体育館と**部活動の地域移行**との効率の良いすみ分け
- 地域活動・文化芸術活動などの**幅広い活用**
- 異常気象による豪雨や災害時の**避難所**としての機能の向上 など

## (4) R5年度 第3回審議会 (R6.3.11) 社会体育館のコストと使用料の考え方

## I 基準コスト（1利用（1コマ2時間）あたりのコスト）

区分	32施設全体の 1年あたりのコスト (千円)	1利用（1コマ2時間） あたりのコスト (円)
A（施設機能向上） ＋ B（施設老朽化対策） ＋ C（維持管理）	310,955千円  ①	<b>【基準コスト】</b> 5,400～7,000円※  (①÷年間コマ数)

※利用率80～60%

年間コマ数（利用率60%）

＝1日あたりコマ数6件（1コマ2時間）×開館日数357日×施設数（32面＋2面）×0.6＝43,697

年間コマ数（利用率80%）

＝1日あたりコマ数6件（1コマ2時間）×開館日数357日×施設数（32面＋2面）×0.8＝58,262

## II 市民の負担割合の考え方

市民の負担割合は、基準コストの50%程度を念頭に検討する

## (4) R5年度 第3回審議会 (R6.3.11) 社会体育館のコストと使用料の考え方

## ● 1利用（1コマ2時間）あたりの使用料試算（案）

市民利用（5,400～7,000円×1/2）（負担割合を50%とした場合）

使用料試算（案）

単位：円（100円未満切捨て）

	昼間 8:30～17:00	夜間 17:00～21:00 (20%割増)
標準的な体育館	2,700～3,500	3,200～4,200
大規模な改修を予定していない 体育館 (20%割引)	2,100～2,800	2,500～3,300
利用率の低い体育館 (40%割引)	1,600～2,100	1,900～2,500

\* 市外居住者の使用料は、基準コストの100%を負担割合として算出

参考：利用人数で最も多いのは、「5～9人」43.7%、次に「10～14人」が33.3%、  
10人前後の利用が77%（令和4年実施 社会体育館利用者アンケートより）

## (5) R6年度 第2回審議会 (R6.11.25)

### 社会体育館 利用状況の把握・分析

#### ●社会体育館の利用実態調査

- 【調査目的】 社会体育館の利用実態を詳細に把握することにより、妥当な料金水準や割引・割増等の検討に資する  
 【調査対象】 市街地、中山間地それぞれについて、利用率の高い体育館から地域性を考慮して選出。また利用実態に特殊性のある中規模体育館についても調査する

※現在までの調査体育館 三輪、川中島、柳原、小松原（市街地） 芋井、中条（中山間地） 信州新町（中規模施設） 全施設の22%

【調査期間】 令和6年9月、10月

【調査手法】 施設案内予約システムから利用情報を抽出

#### ●現在までの調査結果

※半面利用は0.5コマとして算出  
 ※大会・地域行事等を除く一般利用を抽出

##### (1) 利用可能コマ数に対する利用率

※ 利用率70%以上、黄色は40~70%、緑は40%以下の時間帯

		平日午前	平日午後	平日夜間	平日計	土日午前	土日午後	土日夜間	土日計	全日
利用率	市街地	79.5%	79.1%	94.7%	84.5%	84.2%	90.1%	93.4%	89.2%	85.8%
	中山間地	8.0%	20.5%	71.3%	33.2%	36.0%	47.1%	68.4%	50.5%	38.0%
	中規模施設	17.0%	21.6%	59.1%	32.6%	27.9%	26.5%	50.0%	34.8%	33.2%
	全件	50.2%	54.1%	83.0%	62.4%	62.4%	68.7%	80.0%	70.4%	64.6%

- 市街地の利用率が高いが、平日の日中は80%前後と、若干の空きも見られる。
- 全体的に日中より夜間、また平日より土日の利用率が高い傾向があり、特に中山間地においてはその傾向が顕著である。

## (5) R6年度 第2回審議会 (R6.11.25) 社会体育館 利用状況の把握・分析

## (2) 1団体あたりの利用人数(平均)

※半面利用団体も1団体として人数を計上  
 ※大会・地域行事等を除く一般利用を抽出

		平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	全日
総利用 人数	市街地	2,948人	2,692人	4,157人	1,230人	1,282人	1,480人	13,789人
	中山間地	115人	234人	998人	303人	338人	315人	2,303人
	中規模施設	327人	306人	876人	222人	229人	271人	2,231人
	全件	3,390人	3,232人	6,031人	1,755人	1,849人	2,066人	18,323人
1団体 あたりの 利用人数 (平均)	市街地	9.6人	9.2人	12.1人	10.5人	10.1人	11.1人	10.5人
	中山間地	8.2人	6.2人	7.7人	11.7人	10.2人	6.7人	8.0人
	中規模施設	16.4人	14.6人	10.2人	20.2人	20.8人	8.7人	12.4人
	全件	10.0人	9.2人	10.8人	11.4人	10.8人	9.8人	10.3人

- 利用人数は、時間帯等によってばらつきがあるものの、平均すると10人前後である。
- 中規模施設（信州新町）は、大会等を除く一般利用の平均においても1団体あたりの利用人数が多い。
- 中山間地については、特に平日昼間や夜間は少人数で使用している傾向がある。

## ● 検討課題

- 1団体あたりの利用人数の平均値は算出できるが、平均値と実利用人数の分布に乖離があるのではないか
- 曜日、時間帯、場所及び年代ごとの利用にどのような傾向が見られるのか

## ● 今後の方向性

- 市街地、中山間地ともに実態をより詳細に把握するため、対象施設や時期（冬期間など）を追加する
- 市街地、中山間地及び施設によって利用率に大きな差がある中で、料金水準のバランスや区分についての考え方を整理する
- 曜日、時間帯別の利用者の年齢層、また半面を使用している団体の利用状況について調査、把握する

(5) R6年度 第2回審議会 (R6.11.25)

## 社会体育館 開館時間延長事業

### 1 開館時間延長事業の概要

社会体育館において、一層の利便性向上を図るため、これまで開館してこなかった早朝、夜間の時間帯に利用可能なコマを追加で設定し、利用促進につながるか検証を行うもの。

### 2 実施体育館 更北体育館（市街地）、芋井体育館（中山間地）

### 3 実施内容 通常は開館時間外である6：30～8：30、21：00～23：00に利用コマを設定する

### 4 実証結果

#### (1) 延長時間帯の利用状況 (単位：利用日数)

	更北体育館		芋井体育館	
	早朝	夜間	早朝	夜間
R6年 8月	21日 (67.7%)	31日 (100%)	5日 (16.1%)	7日 (22.5%)
R6年 9月	12日間 (40%)	29日 (96.7%)	3日 (10%)	12日 (40%)
合計	33日 (54.1%)	60日 (98.4%)	8日 (13.1%)	19日 (31.1%)
平均利用人数	9人	13人	5人	5人

※予約可能数は両体育館とも8月が31日間、9月が30日間  
※( )内は利用可能日数に対する利用率

#### (2) 延長時間利用者の感想

##### 【早朝利用者】

- ・真夏の暑い時間を避け、涼しい時間の早朝利用は快適
- ・夏の早い時間帯はとてもよかった
- ・他の体育館でも早朝利用ができるとありがたい
- ・バドミントンは戸を開けたまま練習ができないため、涼しい時間帯に利用できるはありがたかった
- ・夏休み中でも朝から動きたかったのでとてもよかった
- ・朝から活動できて有意義だった

##### 【夜間利用者】

- ・集まりやすい時間（21時以降）が利用できてよかった
- ・予約が取りやすく、夜間の時間延長は嬉しい
- ・仕事終わりに利用するため、22時以降も利用できるのはありがたい

- ・更北体育館は延長時間帯の稼働率が高く、芋井体育館についても中山間地ではあるが一定の利用があり、利用ニーズの存在が窺える。
- ・更なるニーズ把握のため、冬期の延長事業実施についても検討する。

(5) R6年度 第2回審議会 (R6.11.25)

## 社会体育館 空調設備設置事業

### ● 実証事業の概要

設置設備：移動式空調機「ヒエスポ」 冷房能力3馬力(7.1kw)×4台

設置個所：大豆島体育館(アリーナ面積 854㎡) 冷房能力33.3w/㎡

裾花体育館(アリーナ面積 777.6㎡) 冷房能力36.5w/㎡

実証期間：令和6年6月21日(金)～令和6年9月30日(月)

実証手段：① 体育館室内に温度・湿度計測機器を設置

② 利用者からの意見聴取

③ 気密状態での空調使用実験



移動式空調機「ヒエスポ」



気密状態での実験状況

### ● 実証結果

- ・アンケート調査において、大豆島、裾花両体育館ともに空調の「効果あり」、「多少あり」の合計が回答全体の90%を超えており、効果を実感している利用者が多かった。反面、大型で場所を取ることで、排熱、排水の必要から使用場所が限定される、競技によって風の影響を受ける、など扱いにくさを指摘する意見もあった。
- ・室内全体を冷やすことは困難であるが、休憩時などに涼めるクールスポットを作り出す効果は認められる。
- ・学校体育館の固定式空調による実証では、断熱のある体育館において明らかに効果が認められている

### ● 今後の方向性

- ・断熱性の低い社会体育館にあっても、空調によりある程度の熱中症予防効果を得ることは可能である。
- ・移動式空調機は運用上の課題が大きく、無人の社会体育館にあっては固定式での導入が望ましい。

# 4 市民アンケート調査の実施

## 令和7年2月実施

### ●アンケートの概要

本調査は、長野市が管理運営する社会体育館の有料化について、社会体育館を使用していない者を含む市民の意識を広く把握するために実施

### ●調査の方法

対象：無作為に抽出した18歳以上の長野市民3,000人

実施方法：WEBフォームまたは紙の調査票による回答

調査期間：令和7年1月下旬～2月中旬

回答方法：WEBフォームで回答

配布数：3,000件 有効回答数1,036件（34.5%）

調査内容

- ①市民の社会体育館利用状況を把握すること
- ②市民の社会体育館の維持に関する考え方
- ③市民のスポーツに対する経済的な負担感覚や社会体育館の利用料についての考え方を把握すること
- ④その他社会体育館の今後の在り方の検討に必要な事項

### ●調査結果

調査結果は、精査中

# 5 今後の進め方（イメージ）

